

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

三菱ケミカル株式会社 広島事業所

(2) 事業所の所在地

広島県大竹市御幸町20番1号

(3) 業種

三菱ケミカル株式会社 広島事業所 …1632 脂肪族系中間物製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25（2013）年度を基準年度とし、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果 ガスの種類	基準年度 排出量(a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)、下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成25年度 (2013)	令和12年度 (2030)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
エネルギー 起源CO ₂	639,255	511,404 20.0	548,377 14.2	509,308 20.3	525,548 17.8	100.0	100.0
非エネルギー 起源CO ₂	44,686	35,749 20.0	26,972 39.6	24,306 45.6	57,685 (29.1)	100.0	100.0
メタン	109	107 1.8	247 (126.6)	215 (96.8)	32 70.9	100.0	100.0
一酸化二窒素	2,839	2,271 20.0	3,463 (22.0)	3,230 (13.8)	3,597 (26.7)	100.0	100.0
その他 温室効果ガス							
温室効果ガス 実排出量総計	686,889	549,531 20.0	579,059 15.7	537,059 21.8	586,862 14.6	0 100.0	0 100.0
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価	温室効果ガス排出の抑制に係る具体的な取り組みを継続し、削減に努める。						

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：



温室効果 ガスの種類	基準年度 原単位 (a)	目標年度 上段：原単位 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)、下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()
エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 排出量総計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
エネルギー消費 原単位 (原油換算kl)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
実績に対する 自己評価							

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	運転安定化による 原単位向上	13,882 原油kL	ボイラー 2缶運転から1缶運転(1缶停止)
2	プロセス見直しによる ユーティリティ削減	4,195 原油kL	洗浄排水再利用 蒸気タービン回転数制御
3			
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1	特になし	—
2		
3		

○ その他の取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	廃棄物の削減及び再利用	—	・ 場内焼却炉による廃油発生量の低減 ・ 焼却灰の再資源化検討 ・ ペットボトルのラベル分別回収によるリサイクル
2	省エネCO ₂ 削減	—	・ 蒸気ロス（トラップ含む）管理の徹底
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。